

平成30年度第3回岡山県和牛改良委員会 議事概要

- 1 日 時 平成31年2月21日（火）10：30～
- 2 場 所 農林水産総合センター畜産研究所（久米郡美咲町）
- 3 出席者 委員：7名 事務局：3名 その他：3名

4 諮問事項

（1）直接検定終了牛等の措置について

今回、直接検定が終了した3頭及び終了間近の2頭についての措置案が示された。措置案が示された5頭について、出席者全員で現畜を確認し、各牛の美点及び欠点を確認した。

直接検定が終了した3頭のうち、先ず「安茂花」は、期待育種価及びゲノミック評価がやや低いため、去勢後肥育されることとされた。

また、「第6新栄」は脂肪交雑のゲノミック評価は高いものの、体積・均称に劣るため、去勢後肥育されることとされた。「花国勝」は体積・近称に優れているが、期待育種価、ゲノミック評価値が低いことから、去勢後肥育されることとされた。

次に、直接検定終了間近の2頭について、先ず「幸花実57」はゲノミック評価が高いものの、体積・均称に劣るため、去勢後肥育されることとされた。「勝百合」は体積、近称に優れ、期待育種価及びゲノミック評価も高いため選抜することとされた。ただし、右前肢の関節から下部分及び肩端が気になるため、今後の飼育管理に注意すべきとの指摘があった。

（2）後代検定終了牛の措置について

美恵茂は当初から検定開始頭数が少なかったため、検定頭数は11頭となり、全頭が終了した。皮下脂肪の厚さは惜しまれるところであるが、枝肉重量、脂肪交雑は非常に高いレベルにあり、特に脂肪交雑の総平均は過去最高の8.4となっている。また、脂肪の質についても高いことが期待され、選抜することとされた。さらに、本牛の産子について確認したところ、肩端や体上線の損徴は確認されていないとのことであった。

（3）岡山県和牛改良委員会規約第4条（組織）の改正について

改良委員会の活性化を図るため、一般社団法人岡山県畜産協会及び岡山県家畜人工授精師協会を委員として追加することの提案があった。

改正案については、異議なく、今後、事務局から各団体へ改良委員会への参加を打診することとなった。